

農家として生きるということ

玉名支部 北原 将成

私は今年1月より新規就農をさせていただき、玉名市大浜で17aの面積にてトマトのハウス栽培をしています。私は高校卒業まで和水町で生まれ育ちました。大学進学の際に福岡県の方に移り住み、大学卒業後は福岡市で会社員として働いていました。私の実家の家業はもともと農業とは全く別の業種で、身内や親戚にも農業を営んでいる方はいません。私自身、農業系の学校に通っていたわけでもなく、全く農業とは無縁の生活を送っていました。

ではなぜ、そんな自分がいま農業を営んでいるかというと、きっかけは6年前の熊本地震でした。

福岡で働いていた私は、通信契約の訪問販売をする仕事をしていました。毎日、朝から夜まで福岡市内のアパートやマンションを一軒一軒訪ねて回っていました。福岡市はアパートやマンションが多く建ち並んでいるので、同じような訪問販売の方も多く、それを煩わしく思う方などからは、訪ねた時に怒号や時には罵声を浴びせられたりもしました。そういったことがあると仕事とはいえど、心が疲弊してきます。「正直このままこの仕事を続けていていいのかな？」や「自分のやりたいこととはなんだろう」と思うこともありましたが、私自身、昔から「この仕事がしたい」「こうなりたい」などの明確なビジョンがなく生きていたので、この仕事も就職できたのでやっているというような漫然とした日々を送っていました。

そんな時に熊本地震が起きました。

当時、私の家族は祖母と父と母が実家の和水町に住んでおり、兄弟は姉と兄と弟がいますが、すでにみんな家を出て熊本県内の別の場所で生活を送っていました。

地震の前震があった日、私は福岡でも大きな揺れを感じすぐにテレビをつけるとニュースで震源地が熊本だということを知りました。すぐに実家の家族や兄弟と連絡を取り、なんとか全員の安否の確認が取れました。幸いみな怪我もなく無事だったので、姉家族が住んでいた場所が震源地の隣町だったのでライフラインも絶たれ困窮していることを知り、すぐに会社に休みをもらい次の日に弟と一緒に車に水や食料を積み姉の家に向かいました。交通網も麻痺していたので、かなり時間がかかりました

が、夜には到着して物資を渡し姉家族と被災状況などを話している時に本震が起こりそこで私も被災しました。立っているのもやっとの揺れで、そこで生まれて初めて死というものを感じました。すぐに近くの広場に避難しましたが、街の電気は全て消え、至る所で煙が上がりサイレンの音だけがひたすら朝まで鳴り響いていました。

その後何日か姉の家に滞在して安全の確認が取れてから福岡に帰りました。福岡に帰った後も生まれ育った熊本の凄惨な状況が脳裏に焼き付いており、「たまたま今回は実家の家族も兄弟も無事だったけれどこれから先も何があるかわからない」その考えが頭にずっと残り、私は仕事を辞め、その年に実家に帰ってきました。

実家に帰ってしばらくは、家業を手伝ったり祖母の身の回りの世話などをしていましたが、これといった職にはついていませんでした。

そんな中、玉名市に住む叔母から、知り合いの農家さんのところが人手が足りておらず人を探しているののでやってみたらどうかと言われました。ただ勝手な先入観ですが、正直なところ農業に対してのイメージが大変な仕事で体もきつく儲からないと、あまりいい印象ではありませんでした。

しかし、熊本地震を経験し死というものを肌で感じたことでいままでは色々なことを頭で考え決めつけがちなタイプだったのですが、人間いつ死ぬかわからないし深いことは考えず、なんでもいろんなことに挑戦したいという思いが芽生え、そこで働かせてもらえるようお願いしました。

そこは玉名市で26aの面積でトマトをハウス栽培している農家さんで、小さいですが法人化されていたので最初はアルバイトとして働き、試用期間を通して社員登用していただけたということでした。私自身、農業に関して全く無知だったので、まずこういう農業の経営形態もあるのだと驚きました。

働き始めは収穫作業と簡単な手入れ作業を教わりました。正直、前職も体を使うような仕事ではなくあまり体力もなかったもので、最初のうちは1日収穫ただけでヘトヘトに疲れて帰り、ひたすら朝まで寝て、また仕事に行くという日々でした。

しかし、全く農業に関して無知だった私にとって、毎日が新鮮で驚きの連続で疲れよりも仕事を覚えることがとても楽しいものでした。

また、体は疲れますが不思議と仕事が嫌だったりはせず、むしろ作物のことや栽培方法などについて教えてもらうほど、とても農業が面白くやりがいがある仕事だと感じました。

作業を覚えていくうちに自分自身、もっと良い作物を作りたいとひとつひとつの作

業に熱を込め丁寧にやるようになりました。あらゆる作業に明確な意味があり、それは会社員時代に漫然と営業を回っていた時には感じられなかった面白さでした。

体も仕事に慣れてきた頃にありがたいことに社員登用していただき、約5年間勤めさせていただきました。2年間はトマトを3年間はミニトマトを栽培しました。その中で栽培方法や温度、灌水、肥培管理など丁寧に教えていただき、私自身、農業に関してもっと知識をつけたい、美味しい作物を作りたいと思い、本や学術書などで勉強を進めていました。知れば知るほど新たな発見があり、とても大変な仕事ではあるけれどもいつしか自分でも農業経営をやってみたいという思いが次第に強くなりました。

そんな中、去年の秋頃に、社長の知り合いのトマト農家さんが御高齢のためにハウス栽培を辞められるという話を聞きました。社長も若手農家の育成に積極的な方で、私が将来的に独立して農業に携わりたいというのを知っておられたので、そこを借りて独立して新規就農してみたらどうかと提案をいただきました。

最初は農業経営に対する不安もありましたが、なにより私自身初めて自分でやってみたいと心から思えることに出会えたので、素直に挑戦したいと思い、就農することを決めました。地主の方に話を通していただき、無事ハウスを借りれることになり、地主さんの土地の管理時期の要望などもあったのでシーズンとしては遅れましたが、今年1月から新規就農し、準備を始め2月に定植をし、7月まで大玉トマトの栽培を行いました。

農業は生き物を扱う仕事なので、とても難しい仕事だと思います。トマトに限らずですが、気候の温暖化や病害虫の増加、また作物の市場価格の低下、農業資材の物価の上昇などさまざまな問題があります。

これからは多様な販路の拡大であったり、必要経費の削減、また時には、栽培する作物のきちんとした選定など、農家自身がその問題に真摯に向き合ってより良い作物を生産することが地域の農業の活性化につながると考えています。

私自身、農業は簡単な仕事ではないと覚悟はしていましたが、やはり自分で栽培や農業経営をすることで、これから先の課題や改善策の必要性、農業経営することの難しさを肌で感じたシーズンになりました。

しかし、こうして独立して就農したことに全く後悔はしていません。自分で農業を営むことでより農業の楽しさや初めて作物を収穫した時の喜びだったり、作物を食べてもらった時の「美味しい」と言ってもらえる嬉しさも感じることができ、改めてや

りがいのある仕事だと感じました。とても難しい仕事ではありますが、その上で改めて農業をすることの楽しさや、やりがいをもっとたくさんの人に知ってもらいたいと思っています。

現在、農家の高齢化や若手の担い手不足も深刻化しています。ここ玉名市もその問題に直面していると思います。そうしたこともあり、自分以外の若手農家さんと「意見、情報の交換やつながりを持ちたい、地域の農業の活性化に尽力したい」と思いJAたまな青壮年部に加入させていただきました。

しかしながら、残念なことにコロナウィルスの影響により、青壮年部の皆さん全員とは、まだお会いしていない状況です。

農家は各々が独立して経営を行なっているので孤立しがちな仕事だと思います。特に現在のコロナ禍により一層、人との繋がりが希薄な時代になってきています。

しかしそんな時だからこそ、地域社会や人との繋がりを大切にし、青壮年部の盟友の皆さんと一緒に地域を盛り上げて、その土地に根付いた農業を行っていきたいです。

私はまだ駆け出しで農家としては半人前ではありますが、早く一人前の農家になって私自身そうしていただいたように、農業をやったことがない方や全く関心がない方にも農業の楽しさや、やりがいを知ってもらい、新たな若手農業者の育成や増加促進の一助になる活動をこれから先していきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。